

1 研究テーマ

「自画像をテーマとした鑑賞授業による異校種間の連携

～鑑賞活動を通じた小学生（高学年）と高校生の交流～」

2 テーマ設定の意図

研究主題である『自画像をテーマとした鑑賞授業による異校種間の連携』において、小・中・高が共通の題材「自画像」を設定し、児童と生徒の交流及び、作品の交流を中心に展開していくものである。中学生と高校生との交流に続き、小学生と高校生の直接的な触れ合いの機会を持つ。

小学校高学年のこの時期は、作品の仕上がりと自分の思いとの違いによって、表現することに苦手意識を持ち始める子も多い。そんな中、少し先の人生の先輩である高校生からの言葉は、小学生にとって何気ない自分の絵が大きく輝くきっかけになるだろう。この体験を通して、認められることの嬉しさやそのままの自分を表現することの素晴らしさを味わわせたいと思い、本課題を設定した。

3 調査研究の内容

(1) 題材名「ぼく・わたしのオモロー」の設定と表現活動

本題材は、子どもたちの遊びの中やレクリエーションなどで時々行っている“ヘン顔”をモチーフにしたもので、普段見せない面白い表情を絵に表す活動である。また、それぞれのポーズや背景の色の仕上げ方にもこだわり、一人ひとりのいろいろな表現方法の違いやよさを楽しむ活動である。

子どもたちにとって“ヘン顔”は、その場を盛り上げるためのものであり、その中で、改めて自分のヘンな顔を描くという行為は、始めは恥かしさが強いと思われる。しかし、自分だけでなく、まわりの友達も描いているので、段々と抵抗がなくなり、楽しく取り組むことができるのもこの題材のよさである。そのため、上手い下手という意識に関係なく、安心して自分なりの表現活動ができる。

高校生との鑑賞の前に、まとめの鑑賞として、じっくり友達の作品を観る時間をとるようにする。自分の表現を発表したり、友達がどんな印象を受け、どんなイメージをもって作品を作ったか想像したりしながら観ることで、自分自身の表現に自信を持ち、感じ方を深められるようにしたい。

(2) 高校の文化祭への作品出品と展示

クラス全員分の「ぼく・わたしのオモロー」の作品を高等学校の文化祭に出品、展示させてもらう。可能な児童は実際に文化祭に足を運んで鑑賞し、様々な作品に触れる機会を設



ける。

(3) 高校生の中学校訪問

中学生の描いた自画像を通して、高校生との交流を深める。

(4) 高校生の小学校訪問（ 中心内容 ）

小学生の描いた自画像を通して、高校生との交流を深める。

4 実践事例

調査研究の内容(4)をもとに、小学校の鑑賞の授業に高校生が参加した時の実践をまとめる。

(1) 本時の目標

ア 自分や友達、高校生の作品に親しみ、楽しみながら観る。

【造型への関心・意欲・態度】

イ 自分の作品への思いを伝えると共に、それぞれの作品の面白さや表現方法の違いに気づき、表現するよさを感じたり、味わったりする。【鑑賞の能力】

(2) 本時の評価規準

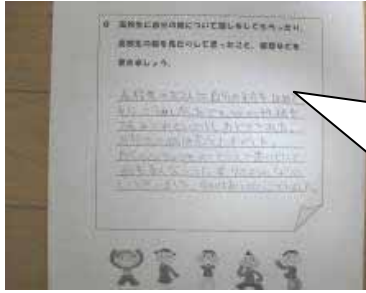
ア 高校生との話し合いを通して感じたことを言葉にして伝え、自分や友達の作品を大切にしている。【造型への関心・意欲・態度】

イ 作品に取り組んでいた時の自分の気持ちなどを振り返り、またそれぞれの作品のよさに気づき、伝え合っている。【鑑賞の能力】

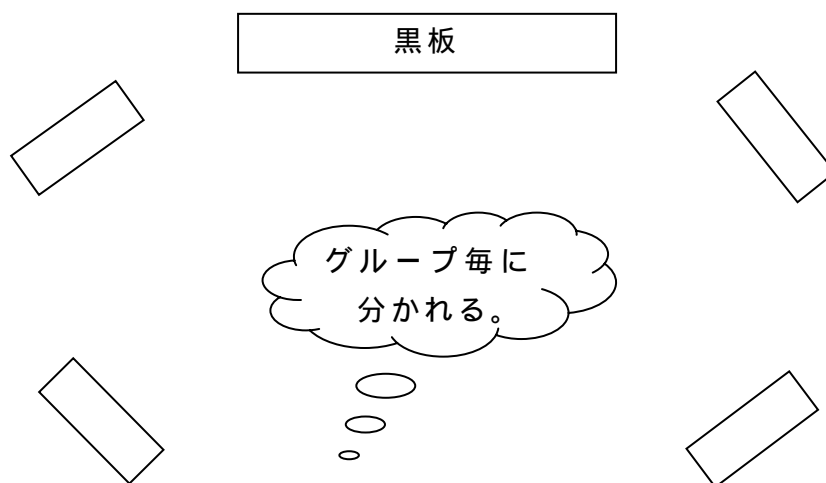
(3) 本時の展開

	児童の活動 予想される児童の反応	思いを生かす支援（○） よさを認める評価（ ）	時間
導入	今日の学習のめあてを知る。 提案：みんなでオモロー顔を楽しもう！  高校生と一緒に作品を楽しむことを知る。 グループ毎の自己紹介とアイスブレイク  をする。	○ 作品についての今までの流れをおさえ、スライドを使って想起させる。（製作時、文化祭での展示など） ○ 高校生の紹介とグループ分けを伝える。 ○ 教師の進行で、お互いの緊張がほぐれるよう支援する。 	10分

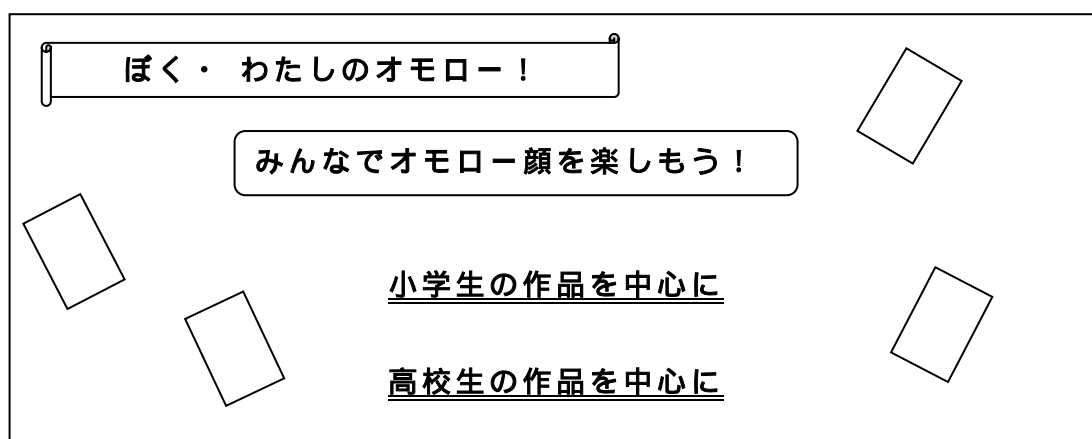
展 開	<u>小学生の作品を中心に</u> 高校生の進行で、自分や友達の作品について話し合う。 「いつものみんなと違う印象だな。」  高校生からのコメントをじっくり読む。 「自分の絵についていっぱい誉めてくれて嬉しいな。」 <u>高校生の作品を中心に</u> 高校生の作品を観て、感じたことを話し合う。 「どんな気持ちで描いたんだろう。」 	○作品のよさを伝えたり、作者の思いや性格などを尋ねたりと、高校生に進行をお願いする。 ○話し合いがしやすいようにグループ毎のブースを作る。 高校生の話に耳を傾け、自分の思いも伝えている。 関（観察） 作品に取り組んでいた時の自分を振り返りながら、友達の作品についても感じたことなどを伝えている。 鑑（観察）       ○グループの高校生の作品から、自分はどうか考える。 高校生の作品について感じたことなどを伝えている。 鑑（観察）  	20分 10分
--------	---	--	-----------------------

ま と め	本時のまとめとして感想をプリントに記入する。 「高校生と一緒にできて楽しかったな。」 高校生に感想と共に感謝の気持ちを伝える。 	○表現したり、みんなで絵を観たりすることの楽しさを感じさせる。 ○自分の作品を手元に置いて、事前に高校生が書いてくれたコメントを見ながら記入する。 活動全体のまとめをプリントに記入している。 鑑（記録） 高校生のお2人に自分の絵をほめてもらってうれしかったです。自分ではあまり気づかなかった所をたくさん言ってくれました。絵から性格も読み取られていて少しおどろきました。高校生の絵は、かげや筋肉もあって、自分の特徴をよくとらえて描いていて、私もあんなふうに描けるようになりたいと思いました。	5 分
----------------------	--	---	----------------

(4) 学習の場の設定



(5) 板書計画



5 分析と考察

(1) 出会い

高校生と一緒に鑑賞活動をするということで、始めは緊張気味だった子どもたち。しかし、お互いの緊張をほぐすアイスブレイクをしたり、自分の絵について高校生が話しをしてくれたりする中で、段々と表情も柔らかく温かい雰囲気になっていった。高校生がどんどん話しをつなげ、盛り上げてくれたので、小学生もそれに後押しされて自分たちも楽しもうとしている様子が見られた。小学生にとって、普段あまり関わりのない高校生との出会いは、中学生よりはイメージがしにくいため、不安もあり、期待もありだった。そして、活動が進むにつれ、自分の描いた絵に対する高校生の言葉に期待や喜び、また高校生が描いた絵を観て、憧れが生まれたようだ。

(2) 自分の絵

成長過程と共に、自分のイメージするように表現ができないという思いから、絵について苦手意識のある児童もいる。今回は“ヘン顔”というテーマで上手い下手をあまり意識しないで取組めたが、やはり、自分の絵をみんなの前で紹介されることに恥ずかしさがあったようだ。しかし、自分の絵が登場すると顔を覆って恥ずかしそうにしていた児童も、高校生からの「ここがすごくいい！」などと声をかけられ、恥ずかしさの中にも嬉しさが表情から伝わってきた。まわりの児童も、いつ自分の絵が出でくるのだろう、自分の絵に対してはどんなことを言ってくれるのだろう、という期待する様子も見られた。いつもの教師や友達からのコメントではなく、高校生からの言葉は、新たな喜びだったと思う。また、「私は絵を描くのは苦手ですが好きではありません。でも今日、高校生に自分の絵を誉めてもらえて嬉しかったです。」という女子児童の感想にもあるように、人と比べてではなく、自分の絵そのものを誉めてくれたので素直に嬉しかったようだ。特に、絵を描くことが苦手だと感じている児童にとっては、今後の活動に自信がつくものとなった。

(3) 高校生からのメッセージ

自分の絵に対してたくさんの付箋が貼ってあり、とても嬉しかったようだ。活動の中で、その付箋を読んでいるとき、教室が静まりかえった。一つひとつのメッセージを真剣な眼差しで読んでいる姿が印象的だった。その時の言葉だけでは、時間がたつと記憶も感動も薄れてしまうが、画用紙いっぱい貼られた自分の絵についての高校生からメッセージは、宝物になるはずである。

(4) 鑑賞の仕方

1枚の絵に対して、さまざまな角度からさまざまな言葉を小学生に投げかけてくれた高校生。まだ、絵をじっくり感じて観る経験の少ない小学生にとって、絵の見方や感じ方にはいろいろある、ということを体験するいい機会となった。

(5) 高校生の絵

高校生の絵を目にした時、小学生の反応は感嘆というよりも圧倒されていたような感じだった。自分たちの絵とのあきらかな違いにびっくりしたようだった。しかし、その後の感想用紙には「本物そっくりすごいいい！」「あんな風に描いてみ

たい」など、高校生の絵のよさや憧れの感想が多かった。また、あるグループでは鉛筆の種類について教えてもらい、いろいろな太さや濃さを計算しながら選んで描いていることに興味を持った児童もいた。

6 成果と課題

作品を通しての小学生と高校生との交流は大変有意義な時間であった。小学生にとって、自分の絵を先生や友達など、身近な人以外に認められることの経験は新たな喜びと今後への自信につながったと思う。

今回の活動は、上手い下手を意識せずに取り組んでいった題材だったが、高校生の絵を観た小学生が一瞬、その上手さに構えてしまった場面があった。いつ、どのタイミングで高校生の絵と出会うかによって、また違った反応が考えられる。小学生と中学生とでもまた、扱い方は異なるだろう。それぞれの成長過程に合った進め方や投げかけ方を探り、よりよい連携を図っていく必要があると感じた。今後も、いろいろな可能性があるこのテーマの研究を進めていきたいと思う。

最後に、鑑賞の授業とは別に、お楽しみ感覚で高校生と一緒に絵を描くことを体験した。体育館で模造紙をつなぎ合わせ、テーマを「未来」として自由にみんなで描いた。お互いに慣れたということもあるが、みんな生き生きとしていた。高校生が描いた2本の道を小学生がどんどんつなげ、まわりにいろいろなものを描いていく。一緒に何かを作るという素敵な経験と交流ができた。前の時間、高校生の素晴らしい絵を鑑賞させてもらったが、そんな高校生も自分たちと同じようにクレパスを使ったり、キャラクターものを描いたりする姿に親しみを感じた児童も多かったのではないだろうか。鑑賞とは別の新たな異校種間の連携のヒントが見つかったような気がした。

